

平成29年度 第1回 校内研究会

研 究 主 題

自他の思いや考えを大切にし、支え合える児童の育成
～子どもの思考に沿った道徳の時間の学習活動を求めて～



平成29年6月21日 (水)

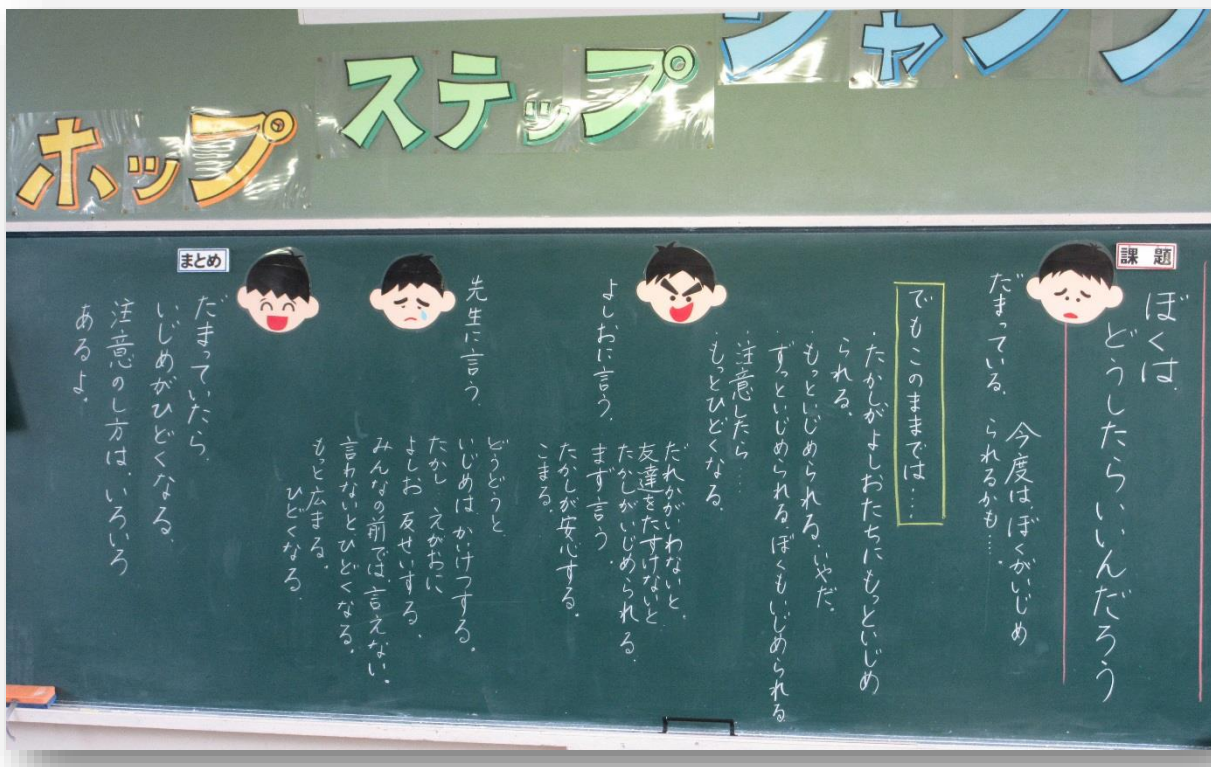
宇佐市立 宇佐小学校

授業の様子

提案授業 13:50~14:35

学年	教科	資料名	指導者	教室
第4学年	道徳	どうしたらいいんだろう 出典：「ぬくもり」	大石 貴子教諭	4年教室





事後研では…

- 教材文が適切であり、今までの生活経験をもとに子どもたちの本音が発言によく表れていた。
- 「でもこのままでは・・・」に続く言葉を考える活動で、自分が“ぼく”になって悩み「だまっても困るし」「注意しても自分が困るし」・・・(葛藤)と、より深く考えることができた。
- 「どうしたらいいんだろう」に対して、「よしおに言う(注意する)」「先生に言う」という方法論だけになってしまっている。
 - ・わかるけど出来ない“心”
 - ・「よしおに言う」「先生に言う」の違い
 - ・「言う」のなかみ(おかしさ)
 - ・・・・等、具体的な言葉を出していくと理由もふくまれてくる。
- 話し合いの形や理由を考えると、二人が自分の言葉で発言出来ていたが、普段から登場人物の立場にいる子からの発言はなかった。
- 活動の見通し(1,めあて 2,課題をひきうける 3,自分で考える 4,班で考える 5,交流 6,まとめ 7,振り返り)
- 板書ではネームプレートを上手く使用し、前半の考えと後半の考えの変容が見えると良かった。